

第1回厚生・教育部会協議を踏まえた対処方針及び計画への反映【4編】

No.	意見	対応方針・施策への反映	編-章-節 等
1	<p>新まちづくり計画に向けた必要性・課題・新たな視点として、今後の周産期医療提供体制を維持するためには、産婦人科医師の確保、お産ができる病院の経営の安定化等の課題があり、この問題は上田地域のみならず、上小・東信地域全体で提供体制を検討していく必要があるように考える。新まちづくり計画に向けて「上田地域だけでなく、上小・東信地域全体で周産期医療提供体制を維持していけるように、働きかけを行っていく」というような視点を盛り込んでみてはどうか。</p>	<p>市立産婦人科病院の閉院に伴い、医療機能を信州上田医療センターへ集約し、引き続き上小地域の周産期医療体制を維持するため、上田市では医療環境拡充に対して支援を行っている。また、令和5年度から10年度までは、市立産婦人科病院の分娩を担っていただくという視点から上田市として運営費に対して支援を行う予定である。11年度以降の周産期医療体制の維持については、上田地域広域連合とともに検討していく必要があると考えている。</p> <p>⇒施策「機能強化された信州上田医療センターの周産期医療体制を維持します」</p>	4-1-2
2	<p>相談支援事業所の方や福祉サービス事業者と関わることが多いが、多くの方から上小圏域障害者総合支援センターのあり方・現状について、困っていることや苦情の相談をされる。取り組み内容として「上小圏域障害者総合支援センターを中心に、身近な地域で相談支援を受けられる体制を構築します。」とあるが、「上小圏域障害者総合支援センターに相談がしづらい。相談しても対応してもらえない」と言った声を、多く拾っているのが正直なところである。ここでの評価では「B」となっているが、本当に「B」評価としてよいのかどうか、多くの事業所の皆さんの声を聞いていただき、正確な判断をお願いしたい。</p> <p>併せて、今後の課題として、基幹相談支援センターの運営に際し、「委託先が適切な運営を行っているか、厳正な指導・監査を実施していく」と言ったような課題を記載することも大切ではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に、相談支援事業所に対する体制整備を、人材育成部会に位置づけ、相談支援実地教育(OJT研修)を実施しております。手法としてグループスーパービジョンを取入れ、参加者からは、「相談支援専門員間で関係性が築けた。」「主任相談支援専門員や、基幹相談支援センターと繋がりを持つことができた。」等の感想があり、相談体制の構築が図られていることを評価しております。 ・事業年度終了後の適切な時期に、総会が開催され、オブザーバーとして関係市町村担当課長が出席し、事業報告及び決算報告を受けております。事業運営については、自立支援協議会でも報告がされているため、引き続き適正な運営が図られるよう連携してまいります。 	4-2-1

3	<p>発達障がい児への支援の充実には、診断を行ったり、必要に応じて服薬をしたりするなどの支援が大切になってくるため、医療機関の関わりが重要になってくるが、現在、上田市内では発達障がいを専門的に診られる医師が不足しており、初診が1年～1年半待ちという病院もある。部会の中でも「松本市などの取組を参考にしていく」という発言をいただいたが、医師確保に向けての行政として行える役割を、新まちづくり計画に向けた新たな視点として盛り込んでどうか。</p>	<p>4-2-1「施策の方向性」 発達外来の初診までの待ち時間が長さは、保護者の不安や負担感等に繋がることから、受診につながるまでの期間についても相談支援事業を実施してまいります。乳児期から親子の愛着に重点を置き、年齢や成長に合わせた親子支援施策を充実させてまいります。</p> <p>4-3-2「主な事業」 上田市インクルーシブセンター（仮称）構築事業により、「発達相談センター」と「教育相談所」の一部機能を統合し、乳幼児期から学齢期まで支援が途切れることのないワンストップ相談窓口を構築します。</p>	4-2-1
4	<p>生活保護の自立支援プログラムによる自立支援で、4プログラムを実施した、とあるが、4プログラムを実施したのにも関わらず、評価が「C」というのはなぜなのか。（適切に実施しているのであれば「B」になるのではないか。）</p>	<p>4 プログラムのうち「子どもに対する学習支援事業」について、事業開始から今年度で8年が経過しており、事業としての過渡期であることから評価をCとし、今後の拡充について検討したいとの考えです。</p>	4-2-3
5	<p>部会内でも要望としてお伝えしたが、育児中のパパ・ママから「東御市にある東御中央公園のような公園が欲しい」という声を多く聞く。市議会からも要望が上がっているとお聞きしたが、是非整備に向けて検討をお願いしたい。</p> <p>また、雨天時に子どもたちを遊ばせることができる場所が上田市には少ないように感じる。新たな施設・公園を作る際には、全天候型という視点も取り入れていただければと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもがのびのびと遊べるように、また、子育て中の親子や地域の住民等が交流し、憩うことができるように、コミュニティ助成事業等を活用しながら市民協働による身近な公園・広場等の整備を図ります。 ・天候に左右されない、誰でも気軽に楽しめる施設の整備にあたっては、既存の施設を含めた利用方法や施設整備の事業を検討します。 	4-3-1

6	<p>主に信州上田医療センターの周産期医療提供体制についての記載で、出産数の減少や産科医の確保が難しいなど、課題があるとは思いますが、安心して出産ができる病院が複数あること（病院の選択肢が多いこと）が、上田市で出産したいと考える人の増加にもつながると思う。産科への支援を更に盛り込んでいただければと思う。</p>	<p>民間クリニック等では、取り扱うことが困難であるハイリスク分娩にも対応できる基幹病院が地域に整備されていることで、この地域で医師等が開業したいと考える医療圏になることに繋がると考えているため、周産期母子医療センターである信州上田医療センターの体制を維持・拡充するための必要な財政支援を行っていく。</p>	4-1-2
7	<p>サロン設立の助成について、つながりの場の創出は、重要だと考える。この助成については、設立時の備品等の購入に対する助成であると認識しているが、サロン運営に対する助成や消耗品などにも充てられたり、既存のサロンへも助成できるようになったら、活用しやすいのではないか。</p>	<p>現在はサロンの数を増やすことに重きを置いているため、当面は現行のままとしたいが、サロンを含めたつながりの場が一定程度増えてきた段階で内容について再度検討したい。</p>	4-1-3